

工法13. 捨石工、工法14. 巨石列工、工法15. 自然に適合した巨石工、工法16. 岩棚工

これらの工法はいずれも現地の自然状態に合わせ、石を利用して河岸斜面を直ちに、そして長期的に保護する工法である。工法13は河岸斜面に石を数十センチの厚さで敷設する工法、工法14は河岸に沿って巨石を1または2列に配置する工法、工法15は巨石を河岸に不規則に積み上げる工法、工法16は立方体から板状の形をした岩石を石垣のように積み上げる工法であり、原則として現場で得られる石を用い、その地域固有の地質や景観に合わせて作ることが肝要である。共通の長所は、すぐに効果が発揮されることや、動植物のために多様な生息空間が形成されることであり、一方

の短所は、施工方法が不適当な場合は単調で石が目障りな工事になるおそれがあることや、施工には重機の使用が必要なことである。

工法17. 3種類の大きさの石による河床保護工

この工法は、多くの溪谷の河床には基本的には3種類の石（巨石、玉石、細粒堆積物）があることから、その配置を手本にして石を敷設して河床保護を図る工法である。この工法は、河川本来の動的特性を維持でき河川の機能を損なわない工事が可能であり、魚と小さな生物のために多様な生息空間ができるが、前述の石を用いた工法と同様の効果がある。

水辺の話題

「欧州エコロジカル・ネットワーク」調査団募集

自然環境により配慮した多自然型川づくりが主流になりつつあり、生態系との関わりの重視から、河川を従来より広い視点で捉える必要が生じてきています。

このたび当センターでは、財団法人日本生態系協会と共同で、ヨーロッパのエコロジカル・ネットワークづくりの現状を視察する旅を企画いたしました。この分野では先進地域であるヨーロッパの河川・都市・農村における代表的事例を調査し、水と緑のネットワーク整備をはじめとする今後のわが国の水辺計画等に役立てることを目的としています。皆様のご参加をお待ちしております。

【視察先】環境政策研究所（アムステルダム）／RIZA-陸水管理排水処理研究所（リリースタッド、以上オランダ）／農村整備局（ランダウ及びレーゲンスブルグ）／都市内ビオトープネットワーク（カールスルーエ）／ハンブルグ水利局・エルベ川・アルスター湖（ハンブルグ、以上ドイツ）

【日程】1997年7月7～19日（13日間）

【費用】1人当たり約68万円

【調査団長】堂本泰章（財団法人日本生態系協会理事）

【主催】（財）リバーフロント整備センター／（財）日本生態系協会

【募集人員】30名

【申込期限】97年5月30日

正式な案内書の必要な方は送付先住所・氏名を記入の上、FAXをお願い致します。

*この調査旅行は純粋に調査を主体とし、ハードスケジュールで組まれています。意欲のある方々の参加を期待いたします。

【問い合わせ】当センター業務部（真間／中村）まで
TEL 03-3265-7121
FAX 03-3265-7456